第 103 回二科福岡巡回展

▲福岡市美術館

▲会場入り口

▲前夜祭

2019 年 3 月 19 日（火）～ 3 月 24 日（日）福岡県立美術館（１階・３階）にて福岡巡回展を開催しました。４部門（絵画・彫刻・デザイン・写真）全国巡回作品と地元入選作品合わせて約 340 点を展示し、第１会場と第２会場合わせると 5，421 人の方に御来場いただきました。二科福岡支部、二科山口支部、二科大分支部、二科佐賀支部、二科長崎支部、二科会デザイン部福岡支部、二科会写真部福岡支部の協力のもと、無事終了することができました。

昨年に比べて、受賞者はやや減少したものの、二点入選者の数が、14 点に上り会場に活気が出てきました。県立美術館での開催が３年目に入り展示計画・展示作業もスムーズに進み、見やすく楽しめる会場となりました。

３月 18 日の前夜祭は絵画部の西健吉理事、写真部の近藤誠宏理事長をお迎えし、共同主催である西日本新聞社・テレビ西日本の方々、元田川市美術館長で二科西人社展外部審査員の松尾孝司氏、県立美術館副館長 魚里洋一氏をはじめ、多くの出品者の方々に御出席いただき、親睦と交流を深めました。当巡回展のみの西日本新聞社賞を選考しこの前夜祭で表彰を行っていますが、今回絵画部は中村英二（飯塚市）、延吉洋子（北九州市）、池上妙子（佐賀市）、デザイン部は、篠崎周一（佐賀）、写真部は、浜田義明（前原市）の５氏が選出されました。

例年開催のギャラリートーク（3/19）は、絵画部の西健吉理事のトークを筆頭に地元出品者による“自作を語る”ギャラリートークを毎日開催、作者の想いが溢れ出て熱が入るし、参加者の皆さんからも質問が出るなど楽しいふれあいができました。

場者へのプレゼント抽選会では出品作家制作の色紙プラス協賛者からご提供いただいた豪華フェリーでの旅行（神戸 / 大阪・泉大津、釜山）、リゾートホテルの宿泊券等をプレゼントしました。

西日本新聞、有明新報、テレビ西日本ＦＮＮプライムニュース等でも展覧会の様子が紹介されるなど広報活動の充実を計り、少しづつ努力が実りはじめてきました。次回は従来の福岡市美術館に戻る予定ですが、更に充実した巡回展になるよう出品者一同努力して参ります。

○４部門会場展示に関するコラム記事

《絵画部》
　会場の制約により、巡回作品を５５点にしぼって展示しました。天井の高い１階に大きな作品と彫刻を並べ、３階の入口から絵画→デザイン→写真→絵画と途中にデザイン・写真をはさみ変化を持たせました。見やすく解りやすい展示を心掛けました。

▲絵画部会場

《彫刻部》
　１階の彫刻展示室は柔らかな自然光が入り、天井が高いので、大きな作品を中心に展示しました。時刻によって光線が微妙に変化し、そこもまた楽しめる展示となりました。

《デザイン部》
　会場の都合で展示数は７０点と少なく残念でしたが、絵画部からの鑑賞移動がデザイン部、写真部へ再び絵画部へとスムーズに流れ、絵画・写真を見に来た方々にも鑑賞していただき、デザインへの関心も拡がったように思います。

▲デザイン部会場

《写真部》
二科会写真部本部より近藤誠宏理事長がお見えになり、展示された作品についてギャラリートークをしていただきました。その後、前夜祭に御出席いただき御挨拶をしていただきました。
作品の展示は今年も１２４点と少なく、東京展の１０分の１にも満たない展示となりましたが、初日と最終日に会員によるギャラリートークを行い研修の場とすることができました。

▲写真部会場

▲ギャラリートーク（絵画部）

▲ギャラリートーク（写真部）